

## 03

## 【地方自治体で、地域から日本を元気にする】

地域から世界へ、  
環境モデル都市を  
発信する仕事。

庄子 真意

- 平成5年入省
- 横浜市温暖化対策統括本部
- 部長



横浜市の環境未来都市推進担当をしています。横浜市は国から2011年12月に、都市が直面する様々な課題解決の先進的なモデルとなる「環境未来都市」に選定され、関係部局と共に、地域ぐるみでエネルギーの効率的な利用を図るスマートシティの構築や、超高齢社会に適応した郊外部でのコンパクトなまちづくりなどを進めています。今後、新興国が急速な経済成長を遂げるその発展のモデルとしても、我が国の社会・経済活動に幅広く環境保

全と持続可能性を織り込むとともに、「環境」を我が国の強みとして経済発展のエンジンとしていく挑戦が必要です。地域においては、環境の視点をまちづくりや地域活性化に組み込む取組は、人口減少・高齢化、コミュニティの希薄化などの課題への対応と密接なつながりがあり、こうした地域社会に到来する構造変化や問題にも常に目を向けながら、将来に引き継いでいける環境配慮型の地域づくりを手掛けていきたいと思っています。

世界自然遺産登録を進め、  
地方の活気を  
生み出していきます。

則久 雅司

- 平成4年入省
- 鹿児島県環境林務部自然保護課
- 課長



国内世界自然遺産の5番目の候補地となる、奄美・琉球諸島(鹿児島県、沖縄県)の早期登録に向けて、鹿児島県としての取組を推進しています。その他屋久島世界自然遺産の保全管理、生物多様性地域戦略の策定、有害鳥獣の新たな捕獲体制の検討等もおこなっています。地方自治体は国とは異なったシステムで運営されているため、県で意思決定システムの一員となった経験が積むことができたことは非常に有意義で、国の施策の欠点・改善点にも多く気づくことができました。ま

た県に身を置くことで実感したことは、戦後日本は、大都市に人的資源を集中することで発展し、地方は疲弊し衰退せざるを得ない状況に追い込まれる施策が続けられてきたということです。これは東京や海外での勤務では分からない我が国最大の課題の一つでもあると思っています。自然環境行政に携わる私としては、生物多様性の保全と持続可能な利用という観点に限られますが、この問題に取り組んでいくことが、自分のやるべき仕事であるところと奮闘しているところです。

## 04

## 【海外留学で世界を見わたす】

世界全体の枠組みづくりに  
挑戦してみたい。

岸 雅明

- 平成17年入省
- カリフォルニア大学ロサンゼルス校
- 公共政策修士



英語も含めた国際感覚と、政策課題のベストな解決策を提案するための思考のフレームワークを身につけたいと思い留学を決意しました。カリフォルニアは、世界的にも先進的な環境政策を展開している州。シリコンバレーに代表されるように起業家精神にあふれた地域であり、クリーンテクノロジープビジネスも盛ん。大学院では、経済学、統計学など計量分析手法を中心に、政治的・倫理的側面からの政策分析手法や、環境・科学技術・防災・交通・都市計画

など個別の政策分野も学んでいます。留学1年目の春休みには「ジャパントリップ」を企画し、クラスメイト19名と環境大臣らとの意見交換や被災地でのボランティア活動をおこないました。さらに卒業プロジェクトとして、アメリカ人や中国人のクラスメイトと太陽光や風力など日本の再生可能エネルギーの経済影響分析を実施中。帰国したら海外駐在や温暖化国際交渉など、世界全体の枠組みづくりに関わる仕事に挑戦してみたいと考えています。

その国に住む人たちの  
暮らしを考えた  
援助をすること。

永森 一暢

- 平成16年入省
- メルボルン大学
- 環境学修士



大学での講義は、気候変動、公共政策、公衆衛生などを中心に選択し、世界各国から集まった留学生と一緒に政策提案等に関するディスカッション、グループワークなどをおこなっています。豪州では、気候変動や農業開発等を原因にした水不足が広い地域で深刻化しており、水のマネージメントはどうあるべきかという議論をすることが多くあります。またリサーチでは、ツバルとキリバスといった太平洋島嶼国における気候変動適応策について

研究レビューをおこない、後発開発途上国における資金や援助の在り方について学ぶことができました。その国に住む人たちの暮らしや伝統的価値観や歴史的背景を踏まえ、どういったアプローチが望ましいのか。どういった援助や枠組みが期待されているのかを、援助の受け手側に立ちながら勉強する貴重な機会でした。国の諸事情や考え方を知り、日本がうまく調和しながら知恵を出していくことに貢献できればと思います。